

特集

温故知新

～過去の『知恩』とともにコロナ禍を生きる①

編集部

浄土宗祖・法然上人を追慕し、そのみ教えを現代に活かし、お念仏を日本、世界へ広める狙いで、戦後復興途上の昭和24（1949）年に創刊した『知恩』誌。創刊72年目の本年は、知恩院の中心堂宇である国宝 御影堂の落慶を迎えましたが、一方で、新型コロナウイルスという疫病が世界を襲い、地球規模の災禍の年として、人々の記憶に深く刻まれることとなっていきます。コロナ禍は、なお予断を許さない状況にあります。今回から、過去の『知恩』の誌面を飾った珠玉のことはなどを振り返りつつ、現在も第一線で活躍する皆さまから提言をいただき、コロナ禍の時代を生きるヒントを探ってみました。

●念仏者の心得るべき四つの戒め、「疑心」「懈怠」「自力」「高慢」

『知恩』創刊以来の誌面に返って、「温故知新」の心で進めてまいり、過去の誌面へ自由に飛びます。時空を超えて、珠玉のことに触れてみましょう。

まずは40年をひとつ飛び…。昭和55（1980）年です。どんな年だったか、と申しますと、東西冷戦下、旧ソ連によるアフガン侵攻を巡って、米国など西側陣営のモスクワ五輪ボイコットのほか、大きな出来事が目白押しでした。日本では全国の中学校で校内暴力、荒れる中学生に焦点が当たり、金属バット殺人事件まで起きています。映画『地獄の黙示録』や『クレイマー、クレイマー』が話題を集め、山口百恵の引退、ジョン・レノンが射殺されたのもこの年です。

プロ野球ファンや年配読者ならば、あの年か、と思われることでしょう。本塁打数で世界最

